成願寺

季報
99

平成25年12月27日
(2013年)

目次

「このままでは人間が危ない」佐瀬道淳……1
菩薩像（三体）ご寄進の報告……7
日本・オマーン学生交流会の報告……7
成城学園初等学校クラスデー（参禅会）感想文紹介……8
山内短信……12

発行　多宝山成願寺
〒164-0012 東京都
中野区本町 2-26-6
電話　03-3372-2711
制作　地人館

平成二十五年 盂蘭盆会 説教

このままでは人間が危ない

静岡県 可睡齋 齋主・専門僧堂堂長 佐瀬道淳

静岡県 可睡齋 齋主
専門僧堂堂長
佐瀬道淳老師

皆さん、こんにちは。本日は、お招きをいただいて出かけて参りましたら、このように大勢の檀信徒の皆さま、それにご随喜のご寺院さまが大人数でびっくりしております。また、昨年末の可睡齋の火祭りの際には、ご当山の方丈さまをはじめ檀信徒の皆さんが参籠においでくださいました。お寒い中を本当にありがとうございました。

今日の演題は「このままでは人間が危ない」です。副題を付けるとすれば「文明社会の行方」でしょうか。本来ならば、寺の和尚は坐禅堂に籠もって只管打坐して、社会のことには泰然としているのが良いのかなと思ってみたり、でもこれほど世の中がおかしくなってまいりますと、われわれの役目としてなにか警鐘を鳴らしたほうが良いのではないか。私自身が心配性であれこれ考えすぎてしまうということもあるのですが、このままでは人間が危ないぞ、とこんなことを考えずにはいられないのです。

はじめに皆さんに質問をさせていただきます。人間は、あるいは人類は、どんどん進歩していると思われますか。世の中、人間社会はどんどん進化していますか。いかがでしょうか。

科学の進歩のおかげで、生活に便利なものはずいぶん増えました。いまもこうして扇風機がまわって

いますし、皆さんのお宅ではきっとクーラーがついていて、いつでも快適に過ごすことができる。われわれは文明の力による生活の快適さを得てきました。

では、それを使う人間は進歩しているのでしょうか。いかがですか。私は、逆に退化していっているように思うのです。

よく、殺人を犯した犯人の顔がテレビに大写しにされます。それを見ますと私は背筋がぞーっとする思いがいたします。人間らしい、喜怒哀楽の感情なんてない無表情の顔がテレビいっぱいに映し出される。何か異質の生き物になってしまっているように思えてならないのです。「誰でも良いから殺してみたかった」。そんなことは、人間が言う言葉でしょうか。

振り込め詐欺もそうです。お年寄りが一生懸命に貯めてきたお金を、大勢で大がかりな芝居をして、家族のふりをしてだまし取ってしまう。そんなこと、人間がやることとは思えません。

私どもは戦中派でして、小学校の頃には先生から「人間は万物の霊長なんだ。そういう自覚を持ってがんばれ」と言われたものでした。この地球上に数多存在する生き物の中の頂点が人間。そういう自覚をしっかり持って生きろ、とこういうことですね。いかがでしょうか。皆さん、現代社会においても、人間は万物の霊長であると思えますか。私たちの身近な生き物で考えましても、犬や猫でもしないようなことをやっているのが現代の人間です。そう思いますと、私は人間はとっくに万物の霊長の座から滑り落ちて、今は動物たちに笑われているようにも思うのです。

新幹線も走っている、飛行機も飛んでいる、ほとんどの人は携帯電話を持っていて、家庭にはインターネットがある。物質文明というのは、豊かになり、快適になり、今は寝転がりながらでもリモコンであらゆるものが操作できる。ところがその反面、心の病をもつ人が全国で六百万人。自殺者は毎年三万人を超えて、それが十七、八年も続いている。そんな世の中です。ご先祖様、お父さん、お母さんのお陰様でこの世に生を享け、幸せだと感謝して暮らしている人がだんだん減っているのでしょうか。いずれにせよ、放置してはいられない社会に日本はいつの間にかなってしまったように思われてなりません。

大自然の法則に立ち返る

私たちは、反省しなくてはならないことがたくさ

んあります。その一例として、日本はご覧のように周りが海です。その海から塩を採ってはならないという法律が戦後一時期ありました。塩は化学工場で作られました。それで、その塩の弊害が叫ばれるようになり、現在は再び海からバランスの良いミネラルを含む塩を作れるようになりました。

農業においてもそうです。強い農薬で除草や、害虫を駆除してしまう。害虫だけなら良いのかもしれませんが、田や畑に住んでいた他の生き物も一緒に殺してしまう。そのうちに農家の方自身の身体に変調が現れるようになる。これではいかんということに気がついて立ち上がった方、大分県の農家で赤峰勝人さんという方がおられます。この方は自然農法に立ち返り、無農薬、無化学肥料で野菜を育てる循環農法に取り組んでおられます。菌も草も虫もあらゆるものは循環の中で生きている。みんな大事な生き物なんだと警鐘を鳴らしてくださった方です。

また、愛知県の岡崎市に自然分娩を掲げた産院がございます。私は常々不思議に思っていることがあります。人間が赤ちゃんを産む時に、いったいいつから病院で産むようになったのでしょう。妊娠したかと思いますと、すぐに病院。月に何度も検診に行って診てもらいます。いよいよ出産となると入院して、赤ちゃんがなかなか出てこなければ、やれ陣痛促進剤だ、やれ吸引だと。いったいいつから出産がまるで病気のように扱われるようになったのでしょう。

岡崎市の産院は、吉村正さんという医学博士の先生が、昔ながらの自然分娩をされています。その理念に共感された妊婦さんが全国から集まって共同生活をして、昔そうであったように、雑巾がけをしたり畑仕事をしながら、自然な陣痛が来るのを待つのだそうです。医療機器なんてなにもないような部屋で赤ちゃんを産むのです。一昔前で言えば、農家のお嫁さんはこれが当たり前でした。妊娠は病気ではないのですから、陣痛が始まるまで家族と一緒に働いた。それが安産へと繋がったのです。動物たちは当然自然分娩です。自分で産み、後始末までして育てます。それで元気なんですね。

私が不思議に思っていることがもう一つございます。人間はなぜ海や川で溺れてしまうのでしょうか。他の動物たちは、人間のように学校の立派なプールで水泳を教わったわけではありませんがちゃんと泳ぐことができる。牛でも象でも泳ぎますよ。私が思いますのは、人間は海や川に何かしらの理由で投げ

出された時、まず「このままでは溺れる。このまま死んでしまう」という恐怖の心にがんじがらめになって、無駄な動きをして力尽きて溺れてしまうのではないかということです。悠々とした気持ちでいれば、手足が自然と動いて溺れることがないように思えるのです。

申しました出産につきましても、悠々とした気持ちでその時を待てば、自然と産み落とすことができる。だけど、みんなそうしているから病院に行かないと怖くて怖くて、やはり恐怖の心にとらわれて結果自然とはかけ離れた出産をすることになっているのかな。そう思えてならないのです。

人間が、近年してきたことへの危うさに気がついて立ち上がった方々が同じように言っておられることは、自然の法則に従うということです。皆さんもそのことを忘れていませんか。

動物たちの生きる知恵

では人間は、いつからどのように変わってしまったのでしょう。物差しがございませんから、なかなか気がつかないんですね。すぐに確認できる見本のようなものがあって、危うくなっていないか、心も体も健康であるかどうかわかれば一番良いのですが、そんな物は残念ながらないんですね。でも手本になるものがございます。それがこの大自然であり、野生に暮らす動物たちです。知恵を持たない動物のなにが手本かと思われる方がいらっしゃるかもしれません。でも余分な知恵をたくさん持ってしまったばかりに間違いを犯すのが人間でしょう。動物は神様仏様から与えられた生きるための最小限度の知恵で悠々自適に暮らしています。厳しい自然環境の中で自然の法則に従って生きています。

私は動物のテレビを観るのが好きで、ある時テレビをつけましたら、カワウソの親子の様子を紹介していました。カワウソのお母さんが、子どもに泳ぐことを教えようとしている。水の近くまで連れてきて、自分がまず泳いでみせて、子どもにも入るように促している。カワウソは泳ぎが得意なわけですから、子どももすっと入って泳ぐのかなと思いましたら、怖がって入らないんですよ。お母さんはなんとか水に入らせようとしますがだめ。その日は諦めてまた次の日にも水の近くまで連れてくる。カワウソのお母さんは、その本能で、いまこの子を水に入れなければ泳げないカワウソになってしまうというこ

とを知っているんだそうです。ですから、二日目でも水に入らない我が子を最後は突き落として水に入れたのです。そうしますと、もともと泳ぎが得意な動物ですからちゃんと泳げるんですね。

同じようなことで申しますと、イヌワシは断崖絶壁で子育てをいたします。そして子どもの育ちに応じて、自分が噛みつぶした流動食から、だんだん固形にして最後は捕まえてきたヘビやネズミを生殺しのまま与えます。人間がやっているのと同じようなことをやっているんですね。そしていよいよ巣立ちの時がきますと、カワウソのお母さんと一緒です。何度でも自分が飛んで見せて、巣立つように促しを、飛び立つまで繰り返すのです。親という字を見てみますと、木の上に立って見ると書くんですね。

また、犬や猫を考えてみますと、例えば野良猫はいつ食べ物にありつけるかわかりません。今日も一日餌にありつけなかった。そして見上げた家の窓の向こうに、人間が食べるものと同じようなおいしい餌をもらって幸せそうな飼い猫の姿が見える。「あいつ、もし外に出てきたらひっかいてやろう」。野良猫はそんなふうに思うでしょうか。思わないですね。飼い犬が隣の犬の餌を見て、「あいつのほうがいつもごちそうだな。散歩で会ったら吠えてやろう」なんてことも思わない。他と己を比べてひがんだり妬んだり腹を立てたりするのは、余計な知恵を持った人間だけです。

あらゆる事柄を思量する心の働きを分別（ふんべつ）と申します。これをしますと、煩悩にとらわれますよ。だから仏教では無分別智で生きよと説きます。これは、相対的な主観・客観の分別を離れた真実の智慧を申します。でも現代では意味合いが逆転して、無分別が悪いことと解釈されていますね。しかし仏教で説く本当の意味は、分別や識別から離れた、つまり比較することから離れた絶対的な智慧なんですね。

日々を喜びと感謝の心で

人間には、己の生き様が変化しているかどうかを図る物差しがございません。特に人間の心のなかは、他の人からはもちろん自分自身でも理解するのが難しい。ですから申しましたように、大自然やそこでたくましく生きる動物たちの生き様を手本に、生き方を整えていく時代になったように思うのです。

お釈迦様は八十歳でお亡くなりになりました。その最期に「大自然は美しい、人生は甘美だ」とおっ

しゃった。そう言って自分の人生を終えられた。でも考えてみますと、お釈迦様も八十になれば身体の節々が痛かったに違いない。目も耳も若い頃のようにはよくなかった。亡くなった原因もお腹をこわして動けなくなったと伝わっています。毎年二月十五日の涅槃会に掲げられます涅槃図を拝見しますと、立派な寝台がしつらえてあって荘厳な雰囲気もするわけですが、実際は、一国の皇太子として生まれたのにもかかわらず、たぶん最期は力尽きての行き倒れです。それでも「大自然は美しい、人生は甘美だ」とおっしゃったんですね。これはお釈迦さまの大慈悲心ですね。

人間は悪いところばかり見ておりますと気持ちが暗くなります。でも暗くなってはだめなんです。明るくなくては生きていけません。積極的な生き方をして、感謝の心を持って日暮らしをしていく。

私の寺の檀家さんに九十八歳までお元気で過ごされた方がいます。奥さんが一年先に亡くなりましたが、その檀家さん、私の顔を見ますと「方丈さん、今日も最高」とおっしゃる。口癖のように、お目にかかるたびにそうおっしゃっていました。でもね、口癖でも良いのです。「今日は何もないつまらない一日だったよ」。「今日は良いことが一つもなかったよ」と言いながら暮らしているのと、たとえそれが口癖であっても「今日も最高」と言いながら暮らしているのでは、どちらが良いでしょう。たぶんご家族もおじいちゃんが「今日も最高」と毎日を明るく過ごされていることに喜びを感じ、家庭は円満で、大事にし合ったに相違ないのです。その方は、桜が満開の時にお亡くなりになりました。お経に出かけましたら、ご家族が「方丈さん、おじいちゃんは毎晩ごはんをいただく時に『今日も大安吉日だった』と言って食卓を明るくしてくれました」とおっしゃっていました。そういうことを言って暮らしますと、そうなるんですよ。ですから皆さんも「今日も最高だった」と言葉に出してみてください。

世の中のことは、心配なことが多い。新聞を開けば嫌なニュースばかりです。しかしまずはご自身の毎日を喜んで過ごし、感謝して生きましょう。いやいやそのうち喜ぶことが起きるよなんて思って生きていますと、死ぬまで喜んだり感謝したりできません。どうか皆さんも今日を喜び、今日を感謝して明るい気持ちで元気にお過ごしいただきたいと思います。本日はご静聴ありがとうございました。　合掌

菩薩像（三体）ご寄進の報告

功徳主・萩野昭子殿　原案・藤木道明師　刻士・倉田寿山師

ほほえみ観音（微笑観音）…お釈迦様が霊鷲山で弟子に仏法を説いていると、黙って金波羅華（金色の蓮華）を拈り見せた。すると迦葉だけがその意味を悟り微笑んだといいます。これは、言葉ではなく心から心へ伝える境地のことで、ほほえみ観音様も蓮の華を手に、幼子に微笑みかけています。

功徳主・増田憲雄殿　刻士・増田利作師

招福地蔵・子育て地蔵…当山十六羅漢や六地蔵の作者で駿河一の名匠増田利作師の遺作。「一斉衆生済度の請願を果たさずば我菩薩界に戻らじ」の決意で魂を済度してくださる菩薩様です。

日本・オマーン学生交流会の報告

去る十一月十七日（日）、本堂地下において、日本の大学生とオマーン人留学生の交流会がオマーン大使館・日本オマーンクラブなどの主催で行なわれました。筑波、仙台、関西からも集まった九名のオマーン人留学生と二十名余りの日本人学生、クラブ会員十数名が集い、日本語の使い方や日本文化の紹介として地唄舞、津軽三味線を披露。留学生は日本での体験談を話し、交流を深めました。当日は両国の学生共に庫裡に宿泊。留学生には珍しい和室で布団で眠るという経験と翌朝には本堂で坐禅を体験。異なる信仰を持った留学生にとっても、また日本人学生にとっても貴重な体験となりました。

オマーン国ハーリド・アル・ムスラヒ駐日大使ご夫妻が参会。挨拶に立たれました。

本尊様の前で坐禅を体験する留学生。

成城学園初等学校クラスデー（参禅会）感想文紹介

去る六月二十日（木）、成城学園初等学校柳組（五年生）三十八名と引率の教員、保護者がクラスデーの行事として来山。坐禅体験、住職のお話、昼食（お粥）、防空壕の見学を行ないました。感想文が届きましたので抜粋して紹介します。

＊何も考えずに黙って坐っている事はとても大変だと思いました。考えないでおこうと思うと、逆に色々な事を考えてしまうのでちょっと困りました。でもじっと坐ったまま二十分もそのままでいる事はあまりないので、き重な体験ができたと感じました。

＊ぼうくうごうを見に行きました。その中で戦争を思いうかべ、見ていてすごくこわかったです。

＊自分が今普通に生活に使っているものや、食べ物にもたくさんの人がかかわっている。ぼくはそういう人達に感謝をしながら、物を大切にしなくてはならないと改めて実感した。（中略）自分の命が誕生する前からずっと続いているご先祖様をうやまいながら、命を大切にしなくてはならないと思った。（中略）「防空ごう」に入って、ぼくはそのひんやりとした穴に戦争の現実と怖さを感じた。ぼく達が元気に生活できていることは幸せな事なんだと改めて感じることができる住職さんのお話だった。

＊毎日働いているお父さんや勉強を教えてくれる先生やコンピュータ・ゲームを作ってくれる人など、いろんな人のおかげで生活ができていることを知りました。戦争のひどさを知りました。そしてそのあと、おばあちゃんに聞いてみたら、戦争をやっていると中で生まれたと聞きました。ぼくは、戦争にあわなくて幸せだなと思いました。

＊防空壕を掘ることにすごいがんばったんだなと感じられました。戦争に行かされる人がいて、人手が足りない中で掘ったからです。いつこわれるかわからない防空壕の中へ逃げていくことは、人々の、死にたくない、生きたい、という気持ちが伝わってきます。だから、防空壕の中で光をつけたり、防空壕の外に出たりすると爆弾のえじきになるので、暗い防空壕の中にこもるしかなかったんだなと思いました。これは戦争の怖さを表しています。

＊ぼうくうごうでは真っ暗でおばけでもでてきそうなふんいきでした。でもそのふんいきから当時のこう景が見えてきそうでした。

＊住職さんがかぶっていたずきんにつきささったば

くだんを見せてもらいました。その爆弾はとげとげしていて持ってみたらとても重かったです。私はこんなとげとげしたものがつきささったということは本当に戦争というものはこわいんだなとあらためて思いました。わたしはぜったい戦争に近づくような事をしないとけついしました。

＊精進料理はヘルシーでとてもおいしく食べやすかった。さらに感心したのは、洗う人の思いを考えた食べ方で、食事の最後にお茶とたくわんを使って、食器のぬめりを取る事は、とても思いやりのある食べ方だと思った。

＊ばくだんが落ちたり、えいよう不足、薬不足、いまの私たちにはそんな事ないけれど、話を聞くと昔にタイムスリップしたみたいになる。もうぜったいにそんな戦争のせかいにもどりたくない。

＊ぼうくうごうに入らせてもらった。すごく暗くて怖かった。その後に、戦争について書かれた冊子を読んだ。世の中では、今でも戦争がしたくてたまらない人も居るそうだ。なぜあんな悲しい事をしたのか、私には理解できなかった。成願寺では、大切な事を学んだ。良いけいけんになった。

＊「ざふ」というざぶとんに座って、あぐらなどをかいて座る。そして二十分(私は十分に感じた)。ゴーン。鐘が鳴り、終わった。途中で足がしびれたが、すぐになおった。何かの達成感？　を感じた。

＊ぼうさいずきんをかぶっていた時に、バクダンのはへんがささったと聞いた時は本当にビックリした。

＊動物、植物、生き物の命をいただくという意味で「いただきます」と言って食べる。私はその意味はしっていたけれどあらためて聞くと、もっとていねいにやらないと、とか思う事がある。

＊坐禅をやりはじめた時は、すごく足が痛いと思っていたけど、すぐに集中してなにも考えずに、坐禅を組めました。私は坐禅を組んでいる二十分がとても短いなーと思いました。

ほとんどの児童が初めての坐禅でしたがみな立派に坐りました。

住職のお話、真剣なまなざしで聞いていました。

＊ざぜんがおわったあとは副住職に「今、二十分間ざぜんをしました」と言われた。その時、私は三分ぐらいに感じていた。副住職は「べんきょうの二十分間とあそぶ時の二十分間がある」と言った。いつもべんきょうをする時の二十分はすっごくながい。でもあそぶ時の二十分間はあっというまにすぎていく。それを副住職が言ってくれたのかなぁと思った。
＊お寺のごはんの食べかたもいい体験だったと思いました。五観の偈は、食事の心得がかいてあって五つの大切なことがかいてあってよかったです。
＊ぼくの家もお寺だ。でもしゅう派がちがってざぜんはくまない。だからぼくはざぜんをくむのがはじめてだった。ぼくはざぜんをくんでさいしょ早く感じたけどさいごのほうは足がしびれて長く感じた。
＊ざぜんができない人は、あぐらをかいていいと言われたので、ぼくは、あぐらをかいてやりました。そのざぜんの時間は二十分！　これちょっときついんじゃないの？　と思ったけど、集中できたので、二十分が十分ぐらいにかんじました。
＊夕飯までの時間がすごく長くて、お腹がペコペコでこんなにお腹がすいたことがないくらいお腹がすいていたから、これこそ修行。夕飯も今まで食べたことがないくらいおいしく感じたし、ご飯のありがたさがわかった気がしました。
＊午後、昼食でぼく達はおかゆを食べた。そして最後お茶と残り一個のたくわんでおかゆのぬめりを取るなんて、まさに飯の革命だな！　と思った。
＊住職に横の繋がり、縦の繋がりをおしえてもらいました。それに副住職には正しい合掌のやり方を教えてもらいました。
＊いんしょうに残ったのはやっぱり、あの、ぼう災頭きんにささったバクダンのはへん。ぼくは、よくあんな所にささったなーと不思議でしょうがなくてたまらなかった。
＊ぼくは、初めて、坐禅をやりました。二十分間やって、ぼくは、すごく長く感じました。ふだんぼくは、外で遊ぶタイプですけど、たまには、おちつかせるのも、いいことだなと思いました。
＊私は成願寺に来たことは、とてもいい体験をしたと思います。心をおちつかせたり、食事の作法を習ったりするのは、あまり体験できないことだから良かったと思います。
＊戦争のお話を聞いたとき、住職のぼうさいずきんにばくだんがささったのはびっくりしました。

＊住職から話を聞いてとても大事な事と、戦争がおきた時の話を聞かせてもらった。他にめいわくをかけない。天知る地知る我知る、戦争の後は、この辺は全部やけてしまったという事を聞いて、とても勉強になりました。
＊副住職からいろいろ話をきいてからざぜんをした。ざぜんをしているときは初めは集中してたけど足が最後のほうでしびれて集中できなくなった。
＊私が一番印象に残った事はざぜんです。なぜかというと、私がはじめてざぜんをやったということもあるけれど、やっぱりおしゃかさまといっしょのかっこうをしてるんだなって思ったから印象に残りました。命の大切さについても教えてもらい、あらためて生まれてきたことに感謝しました。

合掌をしてお粥をいただきます。

防空壕の見学。戦争中は本尊様、過去帳などお寺の大切なものをお守りしたという話がありました。

＊副住職がかねをならしてぼくは足が痛いのをがまんしていました。そうするとまたかねがなりました。ぼくは足がいたいけど二十分が三分に思いました。
＊坐ぜんをするまえは、すごくきんちょうしました。なぜなら二十分くらいずーっと中身をからっぽにしなきゃいけないからです。でもやったときは、すごく短く感じました。
＊住職から横のつながり、縦のつながり、戦争の話を聞きました。一番心に残った事は戦争の話です。私は、世界で戦争がなくなるといいと思います。
＊ぼうくうごうを見学した。「昔せんそうがあったころ、色々な人がここへひなんしていたんだよ」と言っていた。それを聞いて私は「昔は、せんそうとかで大変だったんだな」と思った。
＊副住職のはなしによると、昔、大声を出すとくずれるぞといわれた、ということにびっくりしました。ぼくはそんなのでくうしゅうから、よくのがれたなと思いました。
＊「静」を覚えるには、けっこうやってみればだれにだってできることなんだなと思いました。
＊いただきます。おかゆを食べ始めた。おかずはす

くなかったけどおいしかったです。
＊じゅうしょくから命について語っていただいた。ぼくが感動したのは、自分がいかにいろいろな人にたすけられて生きているということだった。人間の命はとてもおくぶかいものだと感じた。
＊ぼくたちは、授業中でも、遊んでいる時も、いつも「動」で、おちつきがないです。ただ、今回の成願寺で過ごした坐禅によって、遊ぶ時の「動」と、勉強する時の「静」のめりはりが実行できたと思います。（中略）住職から聞いたお話にも、大切なことが沢山あったと思います。『天知る地知る我知る』この言葉は、今のぼくにも、今の組にも、そして世界でも大切な言葉だと感じています。「うそをついても、人はだませるが、お天道様も、地球も知っていて、そして何よりもうそをついた自分が一番知っている」という話を聞いて、うそをついても意味がないという事を知りました。
＊私は防空壕の中に入って、戦争を日本がしていたころの人たちは、イヤでもこんな暗くてさむい所に入らなきゃいけないなんて、とてもツラかっただろうなぁと思いました。この体験はずっと心の中に残っていると思います。

山内短信

◎除夜の鐘・新年祈禱会（百七組予約受付・一撞き千円）
大晦日夜十一時半来会者一同で読経―撞き出し―平成二十六年元旦零時半新年祈禱―年賀祝杯
＊除夜の鐘の前にお焚きあげをします。本年中の護符などをお持ち下さい。＊乾杯の干支杯はお持ち帰り下さい。＊干支にちなんだ絵馬をおわけします。絵馬に描かれる干支の絵は滋賀県東円寺住職藤木道明老師によるものです。

◎大般若祈禱会のお知らせ
平成二十六年一月十二日（日）、午後一時より大般若祈禱会を開き、家内安全・身体健全・商売繁盛等を祈念します。どなたでも（檀家以外も）祈禱を受け付けます。願文を添えてお申し込みください。

◎年始めの会（初観音）のお知らせ
平成二十六年一月十八日（土）午後二時より、新年初の観音さまの縁日大祭（祈禱会）を行ないます。願文を添えてお申し込みください。
ご祈禱後はお汁粉で懇親会です。会費　千五百円

◎寄宿生募集…当寺近辺に寄宿し、学校等に通う勤勉な者を受け付けます。朝の行事（作務〈有給〉・朝飯）に参加。七時以後自由。僧俗・性別・国籍不問。二十二歳未満。詳細は寺務所まで。